

【防災ちず】住んでいる地域で大きな災害が発生する事態を想定し、地図と地図の上にかける透明シートやペンなどを用意。危険が予測される場所や事態をみんなで共有しながら、地域の自衛意識を高める、簡単な防災訓練です。



高齢者や障がい者など、自力での避難が難しい「要支援者」の居場所も地図に表示し、災害や緊急時に活用。

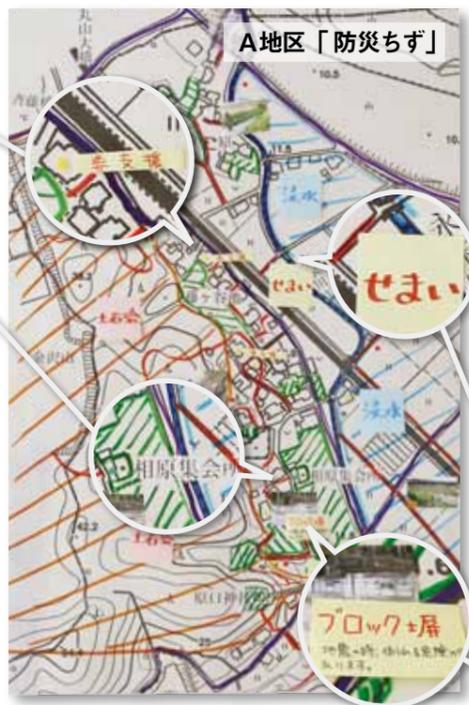
災害の種類・時間・天候も考慮し、避難できる建物や広場に印をつけて、災害時の集合場所に設定。

Let's Challenge

あなたの地域にも「防災ちず」を

人権と福祉のまちづくり地域福祉部会では、「防災ちず」の作り方の指導やアドバイスを無料で行っています。時間は一時間半程度。少人数からでも受け付けます。

☎ 地域福祉部会 (高橋) 22-3778
☎ 町社会福祉協議会内)



※この地図は見本です。実際の地図とは異なります。

みんなの力で作り出す 生き延びるための道標

地域の問題点や危険箇所は、身近であればあるほど、普段は目が向きにくいものです。ここで紹介する「防災ちず」は、地域の情報を地域の人たちで話し合うことで、ひとりでは気づかなかった部分にも焦点があたり、災害発生時に役立つ、身近で正確な防災情報の共有が図れます。「もしも」に備え、地域を「防災ちず」で見つめ直してみませんか。

災害や急病、火事などの緊急時に救急車や自家用車などが通れるか、道幅もあらかじめチェック。

現状は安全でも、災害時に被害が拡大しそうな場所まで細かく注意。写真なども添付し、わかりやすく掲示。

自然の脅威を防ぐのは難しい...
だがその脅威を減らす準備はできる。
改めて地域を見つめ直し、災害に強い町へ。

あなたの命を救うのは 防災意識と地域の絆

「防災ちず」は災害時や緊急時に必要な情報を掲載した単なる資料ではなく、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自衛意識を育み、また、共通の目標を持つて集まることで地域の絆を深めるきっかけにもなります。この意識や絆を最大限に発揮できるのが行政区などの小規模で作る「自主防災組織」です。東日本大震災でも、被災直後に近所の高齢者の安否確認や避難誘導で避難を免れた事例や、孤立

した地域が互いに支え合い、住民同士で協力して炊き出しを行った事例など、多くの被災地で「自主防災組織」が重要な働きをしたことが確認されています。震災以降その働きが注目され、各自自治体で組織の立ち上げが広がり、組織率(世帯カバー率)の全国平均は77.4%に登っています。しかし福智町の組織率はまだ20%に満たず、町の「守り合う体制」は十分とはいえません。災害が起きるの前に、まずは「防災ちず」で地域を見直してみてください。そしてそこから、一歩ずつ災害に強い福智へと歩みを進めていきましょう。

守り合い、支え合える地域へ。

つながりをもう一度

東 日本大震災でも示されたように、緊急時に最も力を発揮するのは地域のつながりです。そのつながりの希薄化が近年叫ばれていますが、一人ひとりが一歩を踏み出し、「集まる」機会を設けるだけでも、このつながりは深まります。そしてこの一歩は、防災だけでなく、防犯や高齢者の見守りなど、互いに守り合い、支え合う地域への可能性も秘めています。

「防災ちず」をきっかけに、もう一度、地域のつながりを見つめ直してみませんか。



人権と福祉のまちづくり地域福祉部会 葛原 高 部会長



地震の規模はマグニチュード9.0、最大震度7。日本周辺における観測史上最大の地震「東北地方太平洋沖地震」。発生した津波による被害範囲は約560kmにおよび、大地を削り、日常を流し去り、1万6千もの尊い命を奪い去った。(写真：震災後の宮城県)

あの日から、3年。

3.11から学ぶ。

あの日、突如多くの悲しみをもたらした東日本大震災。私たちはあの記憶を風化させずに、この記録からどんな備えが必要なのかを学ぶべきではないでしょうか。



忘れてはいけない あの日受けた衝撃を

平成23年3月11日、東北・関東地方に未曾有の被害をもたらした東日本大震災。テレビに映し出される惨状を前に、私たちはただ息をのみ、誰もが言葉を失いました。あれから3年——。当時に比べ、被災地の状況が報道されることも少なくなり、それと比例して、私たちが感じた「防災への意識」も薄れつつあるのではないのでしょうか。大規模な災害が発生した場合は、いかに迅速な救助活動が行われるかが重要ですが、被災直後は道路などの交通手段が寸断され、救助隊が災害現場に向かえないというケースも多く、東日本大震災でも約1万5千人が救助が受けられない孤立状態になるなど、消防・自衛隊・警察などによる救助(公助)の緊急対応の限界が浮き彫りになりました。もし万が一、このような最悪な事態が発生したとしたら...。被害を最小限に食い止めるには、まず「自分の命は自分で守る」という「自助」に加え、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」の意識を持つことが重要となります。



町でも、平成21年7月24日から26日にかけて降り続いた「中国・九州北部豪雨」で、1人の尊い命を奪った土砂災害が発生(上弁城)。